

2050年の住み続けたい板橋のまちを考えよう

板橋区立西台中学校環境科学部「まちの創造」◎3月4日(火)



環境科学部は、毎年、キャベツやジャガイモなどの野菜の収穫・学校給食への活用で、素晴らしい成果を生んできました。

同時に環境学習にも積極的に取り組み、今回は SOE の環境教育特別プログラムとして「緑を増やし、温暖化を止め、自給自足できる学区の 25 年後のまちづくり」を考え、立体模型などで表現し、夢が現実になると思う案を発表しました。

SOE NEWS No.212



2025年4月

センズオブアース
市民による自然共生
パンゲア平成27年度地球温暖化防止活動
環境大臣表彰受賞団体

■まちづくり案①—学区の多くを森と畑にする。荒川河川敷の8割を畑にする。住宅地の周囲に地元産の市場を作る。

■まちづくり案②—学区のほとんどを緑地にする。太陽光発電を荒川の土手にしきつめ、崖緑地域にも設置。風力発電も作る。川には水力発電を起こす。学区と川をつなぐ橋を作る。学区に大量の木を植え、緑地帯を増やす。建物

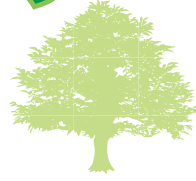


の壁面、屋根に太陽光発電を付ける。電気で走るバスを通す。荒川に電気で走る船。緑地を増やすため、高さ千mの住宅(「マイケル・タワー」と命名)を建て、壁面をすべて太陽光発電にする。張り出した屋上は畑にする。

■まちづくり案③—まちに、大量の畑を作る。動物園【食料用】、水族館【食料用】を作る。河川敷にたくさんの畑や牧場も作る。道路を減らし、畑に。板橋産の野菜の店を作る。

顧問／佐藤将大先生より―「私自身も予想していない案があり、新たな気づきを持つことができた」

学校の木を決めよう



板橋区立板橋第六小学校
4年生◎1組・2組
2月19日・26日

自分の木を決めて、1年間、観察してきた4年生。学年最後に、自分たちが観察を続けてきた木を学校の木に推薦したい理由を木の前で各グループが発表しました。下記の子もたちのふりかえりのす



ばらしさ!! 感性の柔らかさ純粋さに驚嘆しました。

子どもたちが選んで発表した木…

「キンシバイ(金糸梅)・ボケ(木瓜)・エノキ(榎)・ナンテン(南天)・アセビ(馬酔木)・ナツミカン(夏密柑)・シモクレン(紫木蓮)・ラクウショウ(落羽松)・サルスベリ(百日紅)・桜ソメイヨシノ(桜染井吉野)・オリーブ・ツバキ(椿)・イチョウ(銀杏) キンモクセイ(金木犀)・ナツメ(棗)」



🌳木にはいろいろな形や色、においがある。全体的に人と同じでみんなそれぞれ違うということに気づいた 🌳木とおしゃべりができてすごいと自分でびっくりした 🌳葉がそよそよと吹く音がすごくきれいだった 🌳生きものは平和でいられることが分かった 🌳木は大切な生き物だと発見した 🌳静かに耳をすませているとたくさんの鳥の鳴き声や葉のそよぐ音が聞こえた 🌳木にも感情があるかもしれないということをはじめて知った 🌳木は全体的に生命の力を感じた 🌳自分の木と少し近づいたような気がした 🌳フィールドビンゴをやって、木に興味をもった 🌳木は、みんないろいろな特技を持っていて、人間と全然変わらないな 🌳意外とこぶのある木やたてにラインがはいる木が多かった 🌳全部の木には何かの匂いがあると気づいた



先生方より「日常に当たり前に生えている木を様々な視点で見ることができていた。新しく気づいたり見直したりして環境に対して関心が高まった。紙芝居によるインプット、友だちとの交流もあり外でのアクティビティでもあるアウトプットでどちらも楽しかった」
「1年間ほとんど見た目の変化がない木もある、花の咲く時期も、実のなる時期も違うということを感じ取りました。木に話しかけたり、木の声を聞き取ろうとしたりす子が大勢いました」



る、花の咲く時期も、実のなる時期も違うということを感じ取りました。木に話しかけたり、木の声を聞き取ろうとしたりす子が大勢いました」

板一小産 とうふ

上手に作ったよ!!

※1月に実施した1・3組の取り組みは前号に掲載

板橋区立板橋第一小学校 3年生◎2組—2月4日

昨年の春から、大豆を育てて、秋に収穫した大豆を使って、豆腐作りに挑戦。学校支援地域本部やPTA・保護者の方々の丁寧なご支援をいただき、各グループに2人～3人の応援者に支えられ、安全に楽しく、豆腐作りを行いました。



豆腐を気軽に食べていたけど、手間がかかるとは知らなかった。にがりはとてもにがそうだったのに、苦くもないし透明だった。初めて作った豆腐はおいしかったよ。日本はたくさん大豆を食べているのに、大豆を7%しか作っていないとびっくりした。学校で豆腐を作ったよ。とてもおいしくてしかも湯葉も食べたよ。



SOE事業「ビオトープがつなぐ板橋の自然プロジェクト」(2024年度 地球環境基金 助成事業)

学校ビオトープで保全活動のボランティア

板橋区立蓮根第二小学校のビオトープ◎2月26日(日)10時～12時

学校ビオトープサポーターを募り、ビオトープ保全を行う事業として、蓮根第二小学校のビオトープ維持管理担当の方々と一緒に、補修を実施しました。



正門近くにある小さなビオトープの補修は、子どもたちにも参加してもらえよう計画中和のこと



アズマヒキガエルの観察会

3月8日(土) 17時半～19時

参加者36名◎見次公園

講師 東北大学大学院生命科学研究科 長谷和子氏



夕方から、季節外れの雪が降りだしたその時間、見次公園の集会室前に集まってきた「カエル」大好き!? のみなさん。雪なんてものともせず、寒い中、池や水場を観察。数匹の、産卵に出てきたアズマヒキガエルを観てから、集会室で、講師長谷和子氏の話を食べるように聞いていました。

この観察会は、センスオブアースが、板橋区周辺の生物多様性を守る視点から、絶滅危惧

種Ⅱ類に入ったヒキガエルの生態を学ぶために開催。関心を持った方が予想以上に多く、今後の観察会につながるうれしい日でした。

長谷氏のお話から～

★東日本ではヒキガエルの種の交雑が進んでいる ★毎年同じ池で繁殖する ★カエル合戦は、オスのメスをめぐる争い ★年1回繁殖 ★群れをつくるわけは、集まった方が、温かい・食べられにくい・エサがとりやすい ★世界で 40%の種が絶滅の危機…主な原因は「生息域の消滅」 ★なぜ急速に減っているか?…アライグマに食べられている? 環境の悪化が最も大きい、生息域が減っただけでなく(場所の)断片化(バラバラ)も問題 ★多様性とは、集団を維持する力、遺伝的多様性が高くないと伝染病が流行しやすい、オタマジャクシの社会性も集団の維持に役立っている ★オタマジャクシは水を浄化している

